

# 恵みと真理のニュース



2012 年 8 月の 二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## 【証】 私の人生を変えてくださって感謝します。

私は1985年に結婚をして二人の子どもを産んで生活しました。当時、私の家族はある教会に通いながら信仰生活をしていました。

子どもたちが小学校5、6年生になったとき、友達について恵みと真理教会へ行きました。子どもたちが恵みと真理教会の教会学校に行ったら笑顔になって明るくなりました。その後、子どもたちは朝早く起きて教会に行くことをとても楽しみにしていました。以前は子どもたちを起こして教会に連れて行くことがとても大変でしたが、このように変わった子どもたちの姿を見て私と旦那も恵みと真理教会へ行くことになりました。

息子は学校の先生にいつも褒められてとても優秀でした。成績もよかったです、中学校2年生になって思春期に入ってから彷徨し始めました。図書館に行くと言って出かけたなら友達と遊んで夜遅い時間に帰って来ました。その回数がどんどん増えていました。それで怒ったり、たしなめたりしましたが変わりはありませんでした。いきなり変わった息子の行動にどうしようもなく、私は悲しみの中におちてしまい、息子の前では無力なお母さんでした。私の力では何もできないことを深く感じて神様に頼ることにしました。夜遅い時間になっても帰って来ない息子のために神様の元へ戻って来るように切なく涙の祈りを続けました。このように涙の祈りを捧げて10ヶ月ぐらい経って息子が変わりま

した。とてもまじめでとても優しい子になって神様の元へ戻ってきたのです。新しく変わった息子が私に“お母さん、私が彷徨しているときイエス様に出会いました。神様はきっとお母さんの祈りを聞いてくださったのですよ。”と言いました。私は神様に涙と感謝の祈りを捧げました。そして私の信仰にも大きな変化がおきました。前に比べてもっと神様に頼るようになり、霊的にも成長したのです。“神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益とさせていただいた神様に感謝と栄光を捧げます。”

信仰の中で成長した息子と娘は教会学校の先生と外国人宣教会でまじめに奉仕をしています。また、オーストラリアで留学を終えた息子は教会学校で一緒に奉仕をしていた先生に出会い結婚をしました。今はオーストラリアで結婚生活をしながら頑張って信仰生活をしています。娘も学校を卒業して職場で頑張っている。

私が区域長に任命されたとき産後うつ病で10年間薬を飲んでいたときでした。しかし、足りなくて弱い私に心配や恐れの中でも神様に従順する心を与えてくださって区域長と働くことができました。その後、神様は長年苦勞しながらとても辛かったうつ病をきれいに治してくださいました。ハレルヤ！

“私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。”という主の約束の御言葉を強く頼り祈り続けています。

旦那は建設会社関係の会社をしていました。私はその会社をとおして十分の一献金をまじめに捧げることを神様に約束しました。神様は私の心を見ておられ、旦那の会社に溢れるぐらいの祝福を与えてくださいました。しかし、それに従って十分の一献金の金額が増えました。そして、もったいないと思うようになりました。悪い欲望によって十分の一献金を捧げることができなくなり、旦那の建設会社と関係のある他の会社が不渡りになってたくさんのお金を旦那の会社が支払わなければいけない状況に置かれました。当時子どもたちが大学に進学する時期だったので、経済的にもとても大変だった時期でした。そのとき私は深く悟りました。神様に捧げる十分の一献金がどれほど大きな祝福なのか深く感じることができました。このような経験後、私と子どもたちはまじめに神様に捧げものをきちんと捧げながら信仰生活をしています。今はいつも神様を喜ばせることを優先にする信仰生活という希望ができました。

旦那は若いごろ、腰を痛めたせいで長年働くことができてなくてとても苦勞しました。しかし、神様が治してくださって今は腰の痛みで働くことができなく苦勞することがないようにしてくださいました。私の家庭にこのように霊肉ともに祝福してくださった神様に栄光を捧げます。優しく、まじめに神様から与えられた務めを一生懸命に就くことを願っています。神様に感謝と栄光を捧げます。



## 【信仰コラム】 三重祝福

“主イエスキリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。(Ⅱコリント13：13)”

人が一生経験し、所有することはとても多く多様です。その中で益なることもあり、害になることがあります。本文に書いてある三重祝福とはすべての人が必ず経験してもつべきことについて啓示されています。これは無限な祝福であり、貴重なことであるためこれ以上のことはありません。

第一、主イエスキリストの恵みです。

‘恵み’というと、多くの人々は親への先生への恵みを思い出します。しかし、恵みというと犠牲という言葉イメージすることができます。人々が必ず知っていて経験するべき恵みとはイエスキリストの恵みなのです。

イエスキリストは万有を創造し所有した万有の主であり、豊かな栄光をもって来られました。神様の王座の右の座に着き賛美と崇められる聖三位の中で一人聖者神様なのです。このように所有と栄光がとても豊かなキリストが“我々を豊かにするために”貧しい者となってくださいました。童貞マリアの体から人の体をもってこの世に来られました。そして誕生したときおくるみに包まれ飼い葉桶に寝かせていました。

また、一生自分所有の家さえなく、他人のお墓に葬られました。このように天の王座とその栄光から離れ、この世に來られたのです。人間の体で来られ十字架に付けられ罪の購いとして死なれ、復活し天に上げられました。誰でもイエスキリストを信じ、受け入れれば言葉にできない豊かさを得ることができます。汚れた罪の着を脱がし、儀の着を着させてくださいます。また、神様の子ともしてくださって天国を領土としてくださいます。そして復活し、栄光の体を着させてくださいます。イエスキリストがこの恵みを我々に与えてくださるため私たちに求めていることはただ信仰だけです。

第二、神様の愛です。

人が神様の愛を知り、その愛を受け入れると運命が変わります。神様の愛は一人息子のイエス様をおくってくださって、私たちの罪を許してくださいました。とても不思議であり、素晴らしい愛なのです。離れることのない愛、永遠に変わらない愛なのです。神様の愛を拒否し、離れない以上神様に捨てられる人は一人もいません。この事実についてイエス様はたとえ話として、お父さんと放蕩息子のお話をもちて説明しました。罪を犯し、不義で悪い人たちが神様を裏切って離れましたが、神様はいつも彼らが戻ってくることを待っていてくださいます。そして戻ってきた人たちに対して神様を離れた理由について聞くことはありません。ただ、抱きしめてく

ださって歓迎の場を用意してくださるのがお父さんである神様の愛であることをこのたとえ話の中で説明しています。

信仰生活とは、神様の愛を探求する生活なのです。また、神様の愛を悟り、神様が与えてくださる喜びと能力を味わうことができます。

第三、精霊の働きです。

精霊様は聖徒たちの働きをとおしてたくさんのお益を与えてくださいます。精霊様は我々が神様の御言葉を正しく悟ることができるように教えてくださいます。聖書の御言葉で我々が歩む道に導き、主のみこころの中へ我々を導いてくださいます。そして慰めてくださいます。我々の弱さを助けてくださいます。サタンを試しや罪の誘惑に打ち勝つことができるように助けてくださいます。我々が福音を伝えるための権能と賜物を与えてくださいます。各種の賜物を与え、我々を人柄を変えてくださり聖なる、きれいな精霊の実を結ぶようにしてくださいます。人々にこのような三重祝福を超える祝福はありません。イエスキリストの恵み、神様の愛、精霊様の働きは私たちがこの世に暮らすその日まで、さらに祝福の人生を永遠に暮らすために絶対的であり、必修的である要件なのです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

# キリストを相変わらず愛する者



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

〈変化〉と言うのは事物の模様、性質、状態などが変わることを言います。以前と変わるとか他の物になったことが変わったと言います。変化は肯定的な面と否定的な面があります。変化のあってはいけないことがあるしました変化がなければならぬことがあります。変化して良いことがあってまた変化して悪いのがあります。成長と進歩と発展は肯定的な変化です。子供の身は成長する変化はなければなりません。知識と経験の蓄積にも変化がなければなりません。国家の経済は発展の変化が持続しなければなりません。生産技術も進歩を繰り返す変化がなければなりません。衰退と後戻りは否定的な変化です。正義のあることができなかった変節も否定的な変化です。自然界の汚染は否定的な変化です。

自然界に内在しているさまざまな法則と運動は変わりがあってはいけません。もしこんなものなどが変われば人類は滅亡してしまうでしょう。地球の自転と公転の週期と位置に変化が生ずると言えばどんな結果がもたらすようになるはずなのかは自明です。

聖書には変わらないで新しさが持続することに関して記録しました。

ローマ書の 6：4です。〈だから私たちがイエスの死ぬことと合わせて洗礼を受けることでイエスと一緒に葬られたのであるこれはキリストが父の光栄によってキリストを死人の中でよみがえらされたように私たちもまた新しいいのちに生きるためである〉

コリントの第2で 5：17です。〈ですから誰でもキリストにあるならばその人は新しく造られた者である古いものは過ぎ去った見よすべてが新しくなったのである〉エペソ4：22から24節までです。〈あなたがたは誘惑の欲心に付いて腐られて行く旧習を従う昔の人を脱ぎ捨てて新たに心量で新しくなって神様にかたどって義と真理の聖なることで造られた新しい人を着るべきである〉

ヨハネ黙示録 21：1節、2節です。〈また私が新しい天と新しい地を見たら初めて天と初めて地が消えさった海もまたなくなってしまった また私がみると聖なるみやこ新しいエルサレムが神様から天から下ったその予備したことが花嫁がご主人のために着飾りつけたようだった〉

新しい生命 / 新しい被造物 / 新しい天と新しい地 / 新しいエルサレム〉に使われた新しいという用語は皆〈カイノース〉です。これは質的側面で以前と比較されることができない面を持ったのであるのみならずいつも新しさが維持されるのです。他に言ってその新しさが変わりがないのです。キリストの中で新しい被造物になった皆さんに与えられた生命は変わりがない新しい生命です。新しい生命を持った皆さんのために造られた新しい天と新しい地は永遠に変わりがないです。新しい生命を持った皆さんのためにまもなく予備をなされた神様が天から下る聖なるみやこ新しいエルサレムはその美しさと栄えることが永遠に変わらないです。キリストを信じる者等を新しい被造物に良いようにして新しい生命をくださった神様そして永遠に便しない天 と新しい地、聖なるみやこ新しいエルサレムをくださる神様も永遠に変わりがないです。

ヤコブ 1：17です 〈あらゆる良い贈り物とあらゆる完全な賜物がすべて上から光の父から下ってくる父には変わりもなくして回転する影もない〉

ヘブルの13：8です。〈イエスキリストは昨日や今日やいつまでも永遠に変わる事がない〉 ヨハネ黙示録 22：13です。〈私はアルパでありオメガである初めと最後であり始めと終りだから〉 神様の善は永遠に不滅です。神様の真実さは永遠に不滅です。神様の愛は永遠不滅です。神様の権能は永遠不滅です。イエスキリスト中にいる者に向けた神様の愛は永遠不変です。私たちにも変わりがあってはいけないものなどがないなければなりません。その中で一番重大なのがあります。それが本文に記録されています。〈私たちの主イエスキリストを変えることなしに愛するすべての者に恵みがあるすべきだ〉(エペソ6:24) しました。主イエスキリストを相変わらず愛することなのです。使徒ペテロは聖霊の感動を受けられて言うのに 〈キリストをあなたがたが見られなかったが愛するのだ今も見られなが信じて言えない栄え栄えしい楽しいことで喜んだら / 信仰の結局すなわち靈魂の救いを得ているからである〉(ペテロ第1の1:8,9) しました。

愛する皆さん、イエスキリストを信じますか？ その信仰の結局が靈魂の救援のことを信じますか？ 救いを得た皆さんは永遠で聖なるみやこ新しいエルサレムで、永遠に変わりがない主神様と一緒に暮すようになることを信じますか？このような信仰を持った皆さんが 〈言えない栄え栄えしい楽しいことで〉行う事が 〈主イエスキリストを相変わらず愛する〉これです。

人生に一番不幸な事は 主イエスキリストに向けた愛が変わるのです。

ヨハネ黙示録2：4には 〈しかしあなたがたを咎めるべきことがあるからあなたがたは初めの愛を離れてしまった〉 言いました。

イエスに向けた愛が変わることは呪い仕事です。使徒パウロは 〈もし誰でも主を愛しなかったら呪いを受けるすべきだ主が臨在するマラナタ〉(コリント第16:22) しました。

主イエスキリストを相変わらず愛しようとすればその愛を変えるようにしようとするいろいろの状況をよく対処して行かなければなりません。その状況たちが何でこれをどんなに対処するかに関しておっしゃって上げます。

## 第一、苦難という状況に対処する姿勢に関しておっしゃって上げます。

私たちの一生にはさまざまな苦難が迫って来ます。ちょっとしたものなどは別に問題にならないが力に足りない大きい苦難に逢着するようになる時が問題です。初めには私が信仰生活に何か不足な事があったのかを考えて見ます。そして悔い改めます。それなのに問題が解決されないで苦難が持続すればつい気落ちが押しかけます。こんな状況を乗り越えようとすれば神様を愛するのが信仰の目的で理由にならなければなりません。

旧約聖書ヨブ記に登場するヨブは立派な見習うのを残してくれました。聖書ヨブ記を開けばこんなに始まります。〈ウズの地にヨブと呼ぶ人がいたがその人は純然で正直で神様を敬って悪で去った者だったヨブこは男が七人であり女が三人でその所有物はひつじが七千でありらくだが三千であり牛が五百くびきでめろばが五百であった僕もたくさんいたからこの人は東方人の中に最大のおおいな者であったその息子たちが自分の誕生日になるとそれぞれ自分の家で宴を施してその妹三人も請じて一緒に食べて飲むのでその宴日が経てばヨブが彼らを呼んで来て聖潔するようにするが朝に起きて彼らの人数にしたがってはんさいをささげたからこれはヨブが言うのにもし私の息子たちが罪を犯して心で神様を裏切っただろうと言うのだヨブの行事がいつもこのように行なった〉

譏訴する者すなわち魔鬼が神様にヨブをこんなに譏訴しました。

〈ヨブが理由のなく神様を敬いますか？ 主が彼と彼の家と四方にある彼のすべての所有に垣根になってくれなかったんですか？ 主が彼の手にする仕事に福をくださったって、彼の家畜が地であふれるようになりました。しかし主の 手を伸ばして彼のすべての所有を打って見てください。それでは彼が呪うでしょう〉(ヨブ1:9-11) ある日からヨブに連続的な災難が迫って来てすべてのものをすべて忘れてしまっていました。財産もお子さんも健康もすべて消え去った。それなのにヨブが起きて上着を裂いて頭をそり地に伏せて神様に敬排しながら言うのを 〈私のはだかで母の胎から出たから、またはだかであそこへ帰るでしょう。主が与えた主が取られたのである エホバ神様の名前が讃揚を受けてください〉(ヨブ1:21) とこのすべての事にヨブが罪を犯さないし、愚かに神様を恨まなかったです。ヨブの妻がヨブに言うのを 〈あなたがまだあなたの完全さをしっかり守るのですか？ 神様をのろって死んでしまいます〉(ヨブ2:9) しましたが、ヨブは答えるのを 〈あなたはまるで愚かな女が言うことのように語るのと同じだ。私たちが神様に福を受けたから災いも受けない〉(ヨブ2:10) してこのすべての事にヨブが唇で罪を犯さなかったです。

ヨブには神様を敬い畏れることそのものが彼の存在理由で一番貴重な資産でした。このような信仰を持ったからその恐ろしい苦難を乗り越え出しました。私たちがヨブの信仰を模範としなければなりません。皆さんにどんな苦難が迫って来ても主イエスキリストを愛することを信仰の理由にして一番貴重な資産にすることで充分に乗り越えるようになるのを成就を祈ります。

## 第二、逼迫という状況に対処する姿勢に関しておっしゃって上げます。

イエスキリストがおっしゃるのを 〈私をよってあなたがたをのしって逼迫して偽りであなたがたをすべての悪口を言う時にはあなたがたに福がある〉(マタイ5:11) 告げました。〈私をよって〉というお話は 〈イエス様を信じるから〉〈福音を伝えるから〉という意味です。自分がギリスト人というのを隠して過ごして、他人に福音を伝えないで過ごせば逼迫を受ける用事ができないだろう。ところで真に信仰生活でできません。誰が懷をくぐって出るように、明りが漏れるようにギリスト人はどんな機会を通じて福音を伝えるものと決まっています。そうするから悪口を言われて不当な事ができるのです。

テモテ第2 3：12に 〈凡そイエスキリスト中で信心深くに暮そうとする者は逼迫を受けよう〉 しました。ギリスト人は世の中に風潮どおり生きて行くことができます。だから世人の中に住みながら区別されるように行動するから嫌われるようになるのです。

ちょっとした逼迫は易しく勝ち抜けることができます。

しかし極基な逼迫によってひどい苦痛と脅威が迫って来るようになれば心が萎縮します。

〈ジョンフォックス〉と 〈メリキム〉この著わしたキリスト教殉教士禍という本には基督教会の初殉教者ステバン執事から始めて使徒たちの殉教とローマ皇帝治下の殉教者たちと中世ローマカトリック教会による殉教者たちまで膨大な殉教士禍を記録しておきました。その数多い殉教者たちの生と死に関する記録は世の中と適当に妥協しながら信仰を維持しようと思う信者たちを恥ずかしくしてくれます。また信実した信仰で暮そうとする信者たちに大きい激励になって心霊を熱くしてくれます。彼らの崇高な信仰態度にしんみりと襟をただすようになります。

私たちがそういう殉教士禍がすべて分かることができないう言っても新約聖書使徒行伝でステバン執事がユダヤ人たちの石に当たって殉教した記録だけ見てもイエスキリストを相変わらず愛する信仰を守るためにはどんな覚悟がなければならぬかをよく分かります。ステバン執事は彼を殺そうとする輩らの前で避けることができなかった時に天を仰いで見ました。彼は他の次の現実を眺めたのです。罪人を愛して救援しようとする世の中へいらっしやって十字架にかけられましてまた復活のち昇天なさった神様を思って天を仰いで見たのです。その時神様の光栄とイエスが神様のみぎの側に立っていらっしやったのが見えました。その光景を見る瞬間彼の心の中に平安と喜びと胆大さがいっぱいになるようになりました。

聖徒の皆さんは逼迫を受ける時イエス様のこのお話を思ってください。〈私をよってあなたがたを罵って逼迫して偽りであなたがたすべての悪口をするものを言う時にはあなたがたに福があるから / 喜んで楽しがりなさい天であなたがたのむくいが大きくなるのだあなたがたの前にあった予言者たちをこのように 逼迫したのである〉(マタイ5:11,12) そして賞をあたえる神様の前に立つ私を思うので驚くべき慰労と力を得て逼迫を充分に乗り越えるようになるのを成就を祈ります。

## 第三、誘惑という状況に対処する姿勢に関しておっしゃって上げます。

聖徒たちに近付く誘惑は二つの種類があります。信仰生活に熱心を出すことができないようにする誘惑とイエスキリストによる恵みと真理で離脱するようにする誘惑です。適当に妥協する信仰生活は道が広くてあそこに行く人が多くても相変わらず主イエスキリストを愛しますと妥協なしに行う道は狭くてそして行く人が多くないです。キリストがおっしゃるのを 〈人の子が来る時世の中で信仰を見るのか〉(ルカ 18:8) しました。神様の降臨が近くなるほど教会と教人数は増えるが塗った信仰を持った人は少ないだろう

いろいろのもっともらしい名分を掲げて聖書どおりの信仰で去って俗化の道そして世の中の宗教と連合する道で行く者が多くなるでしょう。そういう活動と組織に加わらなければせせこましくて融通性がない者に責める行動をします。聖書の通りさえ行う 聖徒たちを世界化時代の落伍者のように扱います。俗化と宗教一致、宗教統合運動がきらびやかに包装になって教会に侵透しています。

こんな者等の教訓や行為を問題視する人々の声は大勢に圧倒されて押し寄せて蚕食されてしまいます。名声や黄金に惑いされて異端と宗教多元主義を斗護して弁護してくれる者等の数はますます増えています。

キリスト教という名前を使う言論たちまでも経営問題を言いわけをしながらかんな者等を宣伝する道具と転落する例をよく見るようになります。

イエス様はおっしゃるのを 〈狭き門に入って行きなさい滅亡で導く門は大きくてその道が広くてあそこへ入って行く者が多くて生命で導く門は狭くて永遠に狭窄して捜す人がすくないだ 〉(マタイ7:13,14) しました。

イエスキリストを愛するにおいては中途半端な中立は許諾されません。私たちが永遠に愛する神様はイエスキリストだけです。神様は多くの神々中の一人ではないです。唯一な神様です。イエスキリスト名前外には天下人間に他のこれとしては救いを得ることができない名前を神様がくださらなかったです。このような信仰に固く立って振れない人はすべての誘惑を充分に勝つことができます。

使徒パウロは聖霊の感動されてこんなに記録しました。〈もし誰でも主を愛しなかったら呪いを受けるべきだ 主がおとずれます〉(コリント16:22)

〈私たち主イエスを変えることなしに愛するすべての者に恵みがあるべきだ〉(エペソ6:24) ここにおっしゃった 〈恵み〉というのは非常にふんだんな内容を持っていてすべて形言するあてがないです。〈主イエスを変えることなしに愛する者〉にだけ許諾された恵みです。

愛する皆さんはどんな状況でも 〈主イエスキリストを相変わらず愛する者〉に認められる聖徒になるのを成就を祈ります。